

共同助成(福岡県遊技業協同組合)

「こたけ竹育ひろば～子どもと探る小さな町の未来像～」事業

木工や竹細工、農業体験を通して異世代が集い 地域に知り合いの輪が増え、子育て環境が充実

福岡県の中央部、筑豊地区の北部に位置する小竹町は、町の中央を遠賀川が南北にゆるやかに流れるのどかな田園地帯。地域住民同士の助け合いのもとで子育て支援や高齢者の生活支援の推進を目的に設立された「NPO法人リトルバンブー」では、親子や地域住民が集い、子どもを育てながら交流する活動をスタートさせた。



子育て世代と高齢者世代の交流を育む「こたけ竹育ひろば」



家族ぐるみでの世代間交流を活発に行いコミュニティを活性化

核家族の子育て世代と地域のシニアが集い 工作や農業体験で家族ぐるみの付き合いを

小竹町の後援、AJOSCと福岡県遊技業協同組合の助成を受け、リトルバンブーが2017年度に初めて取り組んだ「こたけ竹育ひろば」は、小さな子どもを持つ親が毎月2回程度集まり、竹細工・木工、農業体験、小竹町の歴史を知る学習会などを通じて、地域のシニア世代と心の通じ合う関係性を育むきっかけにしてほしいという思いから始めたコミュニティスクールである。

参加したのは小学校4年生までの子どもを持つ子育て世代の親子8家族36名で、町内にある自衛隊官舎に暮らす家族、夫の実家にUターンした家族などを含め、基本的には親子だけで暮らす、いわゆる核家族だという。そこにサポーターとして町内の70歳前後のシニア世代(登録者26名)が加わり、親が作業や体験をしている間、子ども

たちを見守ったり、みんなで一緒に食べる昼食の準備をしたりする。

6月から3月まで毎月2回、日曜に、原則10～15時まで、小竹町が移住希望者の居住体験と町民同士の交流の場として整備した「こたけ創造舎」に集まり、町内及び隣町在住の講師から木工(カレー皿、スプーン、フォーク)、竹細工(竹カゴ)を学びながら製作したり、近隣の農家の協力を得て、サツマイモや高菜の栽培、梅干しづくりを体験したり、小竹町の歴史を学んだりするのが主な活動内容となっている。活動場所、講師、サポーター、工作材料、農業体験用の畑など、事業に必要な資源はすべて町のもので賄えるため、まさに地に足が着いた手作りの活動と呼ぶにふさわしいし、土地への愛着は、こうした体験や異世代の交流を通じて培われていくのが本来の姿だと言えるだろう。

知り合いがいることの大切さや集う楽しさを通し 地域で子どもを育てる意識に変えていく

元々、地縁がない土地に住み核家族で子育てをしている親は、どうしても孤立しがちになる。一方、若年層が雇用の機会を求めて都市部へ流出していく地方では、夫婦もしくは単身の高齢者世帯が増え、これまた孤立しやすい状況となる。リトルバンブーの「こたけ竹育ひろば」は、そうした孤立しやすい子育て世代や高齢世代を結びつける役割を果たしている。

そうして地域の中で同世代だけでなく、異世代の知り合いができることでコミュニティとして充実していくし、より子育てしやすい環境になる。子どももまた親以外の地域の大人と触れ合いながら活動することで、社会性や土地への愛着が湧いてくる。

「親も子も高齢者も、地域に知り合いがいることの大切さや集うことの楽しさを体感してもらいたい。まずは、子育て中の親世代が地域での活動に参加して『楽しい』と思うことで、子どもたちも『人と集うことは楽しい』と感じてくれ

ると思います。それが社会に出たときにも役に立つ。さらに、そこに地域住民も参加して、『地域で子どもを育てる』という意識が変わっていくことで、より暮らしやすいコミュニティになっていくと思います」リトルバンブーの井上頼子さんは、この事業の意義についてそう話す。

参加した母親からは、「自分たちでできることは手伝うし、お金を払ってもいいので続けて欲しい」「親戚が増えたようであれいい」「もし家を建てるなら、ここがいい」という声が寄せられたり、子どもたちからも、「みんなでごはんを食べるのが楽しい」「創造舎のじいじ、ばあばと遊ぶのが楽しい」といった声があがったという。木工教室と農業体験は2018年度も継続する。

福岡県遊技業協同組合より

子育て世代と高齢者の交流は地域活性化に繋がる面白い活動だと思われ助成しました。これからも地域コミュニティの発展のきっかけになることを願っています。



地域ぐるみでの農業体験も実施



「こたけ竹育ひろば」の活動を告知するチラシ

助成団体: 特定非営利活動法人 リトルバンブー

<http://www.lbkotake.com>



安心して子育てができ、高齢者が心豊かに暮らせる土地に

助成金をいただいたことで、講師への謝礼や工作に必要な道具や教材を準備することができ、参加費用は昼食の材料代だけに済ませることができました。おかげさまで団体としての認知度も上がりましたし、活動の基盤ができましたので、今後はさらに子ども・子育て世代・高齢者のサポートという私たちのミッションの遂行に邁進していきたいと考えています。

NPO法人 リトルバンブー
副理事長 井上頼子さん